



http://www.city.shimonoseki.lg.jp/



会場で日本政府代表団の一員として、会議を傍聴する中尾市長

下関市長の部屋

検索

第65回IWC(国際捕鯨委員会)スロベニア年次会合に出席して

んには。市長の中尾友昭です。9月15日から18日までの4日間、ヨーロッパのスロベニア共和国で開催された、第65回IWC(国際捕鯨委員会)年次会合に、下関市議会木本副議長と共に日本政府代表団の一員として出席してきました。会場は、ポルトロージュというスロベニアの首都リュブリャナから約140

キロ離れた所です。今回のIWC年次会合は、日本が行っている南極海鯨類捕獲調査に対する国際司法裁判所の判決が出た後、初めて開催される年次会合でした。判決を受けて新たに策定される日本の南極海調査捕鯨の方針や内容について、日本政府代表団から会合の場で説明がありました。捕鯨反対の国々からは厳しい意見も出ましたが、来年開催予定のIWC科学委員会提出に向けて、さらなる丁寧な説明や建設的な議論がされることを期待しています。日本は科学的なデータに基づき、鯨類を含む水産資源を持続的に利用するという立場です。近年、増加したクジラが大量の海洋生物を捕食し、漁業との競合や海洋生態系のバランスの変化につながって

います。今後、下関市としては、①「捕鯨を守る全国自治体連絡協議会」と連携して日本政府を応援していくこと。②くじらに関する下関の取り組みについて、市民の皆さんに丁寧な説明していくこと。③くじら交流協定を締結した蔚山広域市南区を中心に、くじらで韓国と連携すること。この3点について、

取り組みを進めていきたいと考えています。

下関市では現在「日本一のくじらのまち」を目指して、経済波及効果の大きい調査捕鯨船団の基地化を目標とした「くじら文化発信事業」を行っています。戦前・戦後を通じて南

水産都市発展の原動力でした。かつてのにぎわいを再びくじらで取り戻すため、くじらを取り巻く正しい情報を市民の皆さんに発信すると共に下関が誇るくじら文化を次世代に継承するため、年12回の鯨肉給食や小学生対象の下関くじらサマースクール、長門市とのくじら交流事業なども実施しています。今後も皆さんのご支援をよろしく願います。

中尾市長の似顔絵を募集しています。作品と、住所、氏名(ペンネーム可)、電話番号を、広報広聴課(〒750-8521市内南部町1番1号)へお寄せください。

しものせきナビ vol.50

下関の登録有形文化財

下関南部町郵便局庁舎

下関市南部町22番8号



明治から昭和初期の建物が残り、戦前の下関の様相をうかがい知ることができる唐戸交差点。わが町の自慢の一つにしたい歴史的風情が感じられる日本有数の交差点です。

この交差点の一角に、現存最古の現役郵便局舎である下関南部町郵便局庁舎(旧赤間関郵便電信局)があります。明治33(1900)年、外浜町から南部町に移転しました。新築された庁舎では、11月5日から業務を開始し、現在に至ります。煉瓦造2階建のルネサンス様



式庁舎は、左右対称、建物細部の比例的調和などから均整の取れた外観を呈しています。形式を簡素化し、水平線を強調する点などにも様式の特徴がよく表れています。

建物の設計は、通信省の技師であった三橋四郎です。彼をはじめ、この時期の日本人建築家たちは明治初期に西欧の技術が日本に移入されてから西洋建築を学び、明治30年代前半には本格的な西洋建築を造ることができるようになっていました。彼らの学習の成果、特に意匠上の修得を示すものとして、この建物を挙げる事ができます。現在は、現役の郵便局舎であると同時にカフェが併設され、活用が図られています。

※登録有形文化財…地域のシンボルとなっている建物など、特にその保存と活用が必要とされる身近な歴史的建造物のうち、文部科学大臣が文化財登録原簿に登録した建築物や土木構造物などのこと